

フロンティアプロスパー株式会社

経営ビジョンおよびDX実現への取り組み



- Environment -

デジタル技術の進展と 業界構造変化への対応

クラウド、AI、自動化技術の進展により、企業の業務改革の実行可能性は高まっています。一方で、人手不足、業務の属人化、既存システムの複雑化など、業界を問わず共通する課題が顕在化しています。

当社は、これまで複数業界での支援実績、とりわけ食品流通・物流分野で培った業務理解と現場対応力を強みとし、顧客支援を通じて蓄積される案件進捗・工数・業務ログ等の自社内データを分析・活用することで、自社自身の変革と提案品質の継続的向上を実現することが重要であると認識しています。

- Vision -

自社データ活用による自己変革と、 それを基盤とした実行伴走型DXの実現

自社業務のデータ活用と継続的な自己変革を推進します。
顧客支援プロジェクトを通じて蓄積される業務課題・改善施策・成果データを自社内で一元管理・分析し、提案精度の向上とサービス品質の改善に加え、自社の案件収益性・リソース配分の最適化、および業務の標準化・生産性向上に活用することで、持続可能な価値創出を目指します。

これらの取り組みを自社内で実践・深化させながら、その知見を顧客支援にも還元します。

- Model -

自社データ蓄積・活用を起点とした、 段階的自己変革モデル

当社は、自社の業務・IT環境の可視化を出発点とし、支援プロジェクトで得られるデータを自社内で蓄積・分析・活用する仕組みを段階的に構築します。案件管理・提案採択率・案件完了評価などのデータを四半期ごとに分析し、自社のデリバリー品質と収益性の改善サイクルを定着させます。あわせて、自社内の業務ログ・稼働データを可視化し、担当者別の工数・対応件数を週次でモニタリングすることで、属人化解消と生産性向上を推進します。食品流通・物流業界での支援実績を通じて培った業務構造理解をデータとして体系化し、自社の知見データベースの充実と提案品質の継続的向上につなげます。

- Strategy -

自社データ活用と継続改善を軸とした、 持続可能なDX戦略

自社の業務・IT環境を整理し、以下のデータ活用を戦略の中核と位置付けます。

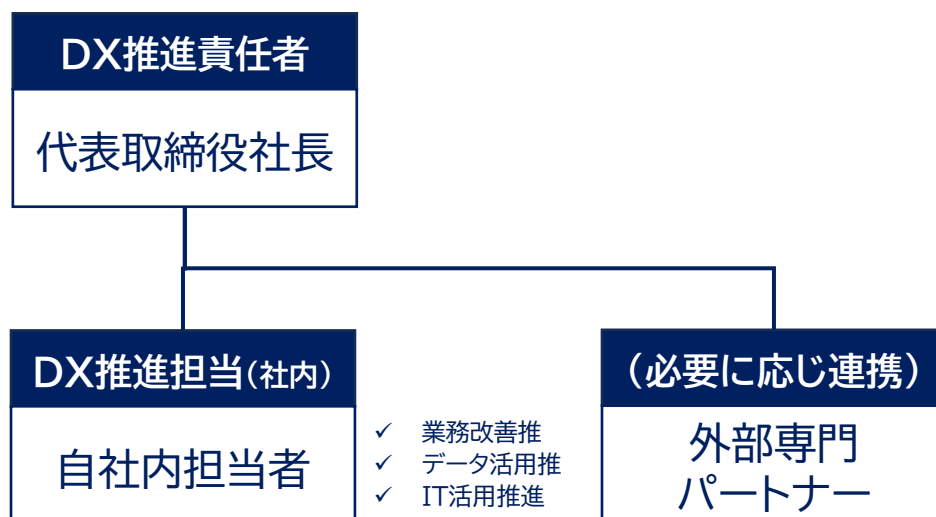
1. 顧客支援プロジェクトを通じて得られた業務課題・改善施策・成果データを業種・プロセス別にナレッジDBとして蓄積・類型化し、新規提案時に類似事例データを参照・活用することで、提案の再現性と精度を継続的に高め、担当者ごとの提案採択率の継続的改善につなげます。
2. 自社内の案件進捗・工数・提案採択率データを四半期ごとに分析し、収益性・成功率の高い支援領域・フェーズを特定することで、リソース配分の最適化と自社デリバリー品質の標準化、収益性の継続的改善を目指します。
3. クラウドツール(チャットツール、タスク管理・ドキュメント管理ツール、CRM等)を活用し情報共有、ナレッジ管理、タスク管理のデジタル化を自社内で実施します。業務ログ・稼働データを可視化し、担当者別の工数・対応件数・案件ステータスを週次でモニタリングすることで、属人化している業務を特定し、対応手順の標準化・マニュアル化を進めます。また、稼働データをもとに業務量の偏りを把握し、タスク配分の最適化と生産性の継続的改善を図ります。

- Governance -

経営直結型・迅速実行体制によるDX推進

当社は、DXを経営戦略の中核に位置付け、代表取締役がDX推進責任者を兼務する体制を採用しています。DX推進責任者のもとで、社内担当者がDX推進を担当します。

また、必要に応じて外部専門パートナーと連携し、システム開発・セキュリティ対策・技術支援を行うことで、迅速かつ柔軟なDX推進体制を構築しています。



KPIを定期的に確認し、
必要に応じて方針を見直すことで、
継続的な改善を図ります。

- Talent -

実践を通じたDX人材の育成

DX推進には、デジタル技術だけでなく、業務改善を実行できる人材が必要です。

当社ではDXプロジェクトを通じて、業務可視化・IT活用・業務改善の経験を蓄積し、実行力のあるDX人材を育成します。

特に、データ収集・分析・活用を実践できる人材を自社内で育成し、自社DXの推進力を高めることを目指します。

また、専門性が必要な領域については外部専門家と連携し、技術変化へ対応します。

- Infrastructure -

戦略実行を支えるクラウド活用と 情報セキュリティ強化

当社では、ナレッジDBの構築・案件データの管理・業務ログの可視化を目的として、クラウドツール(チャットツール、タスク管理・ドキュメント管理ツール、CRM等)を活用した業務基盤を整備し、案件データを四半期ごとに分析し、業務ログを週次でモニタリングできる基盤として、データの収集・蓄積・活用を推進しています。

また、情報資産の機密性・完全性・可用性を確保するため、情報セキュリティ基本方針を策定・公表し、SECURITY ACTION(二つ星)自己宣言を実施しています。これにより、安全で信頼性の高いデータ活用基盤を構築します。

- Metrics -

DX推進における成果指標

KGI（最終目標:3年以内）

自社データ活用基盤の確立と、
それを基盤とした再現性ある
支援モデルの確立

KPI（年度管理指標）

- 社内業務におけるクラウドサービス活用率：
80%以上
- 支援案件データのナレッジDB登録件数：
5件以上/年
- 自社案件データ分析レポートの定期作成：
四半期1回以上
- 提案採択率の前年比向上：
（目標値:毎年度設定）

※定期的に確認し、必要に応じて見直します。

- Roadmap -

3か年DX推進ロードマップ

3年目

自社データ活用基盤の
高度化と、再現性ある
支援モデルの安定運用

- 3種データ活用の高度化・統合運用
- 再現性ある支援モデルの安定運用

2年目

自社データ活用施策の
実行・改善サイクルの定着

- 四半期分析サイクル定着・ナレッジDB本格活用
- 業務標準化の推進

1年目

自社業務・IT環境の可視化／
データ活用推進体制の整備

- 業務ログ可視化・ナレッジDB構築着手
- クラウドツール活用基盤の整備

※進捗はKPIに基づき評価します